

企業のチャレンジを応援する
ビジネス創造誌

NICOPRESS

公益財団法人にいがた産業創造機構 vol.151

知的財産における 産業における 戦略的活用を！

特集 知つておきたい



専門家INTERVIEW

独立行政法人
工業所有権情報・研修館

浅野 泰光 氏

一般社団法人 新潟県発明協会

比企 修 氏

事例企業

- 新潟精機株式会社
- 株式会社曙産業
- ウエタックス株式会社

連載

挑む! わが社のNEXT STAGE
株式会社リプロネクスト

ニイガタ元気企業 活力のカギ
柘尾農園株式会社

2018

2

世界市場で戦うため、積極的な知財活動を展開。



「知財担当部署は仕事の効果が見えにくい部署ですが、会社を守る上で絶対にやらなくてはいけない仕事をしている。そういう意味では、会社の要になっていると思います」と語る五十嵐社長。担当部署の真保本部長、本田課長代理、森山氏は、知財に関する知識を深めるため、新潟県発明協会主催のセミナーなどにも参加している。(写真左から本田課長代理、五十嵐社長、真保本部長、森山氏)

NICOクラブ会員

新潟精機株式会社

代表取締役社長

五十嵐 利行 氏

執行役員 技術本部 本部長

真保 盛雄 氏

技術開発課兼商品情報課 課長代理

本田 剛治 氏

技術開発課兼商品情報課

森山 蓉子 氏

〒955-0061 三条市林町1丁目22番17号

TEL.0256-33-5501 FAX.0256-33-5551

<https://www.niigataseiki.co.jp>

弁理士に全て任せのではなく
まずは社内で検討

精密測定工具とDIY向け商品の製造・販売を主力とする新潟精機株式会社。同社では30年以上前から特許を取りており、15年前には知的財産の担当部署を設けた。

「海外ではすぐにコピー商品が出回るので、海外、国内ともに、しっかりと知

財の権利を取っておくことが必要です。弁理士に全てお任せすることもできますが、それでは社内にノウハウが残らないですし、権利を取得するコストの妥当性も分からず。商品のことを一番知っているのは社員なので、まずは社内で理解を深めてから、権利の申請をするかどうかを決めています」と五十嵐社長は語る。

商品を熟知した説明や 事前調査が知財取得のカギ

知財担当部署の真保本部長は「申請の書類自体は長年付き合いのある弁理士に作成を依頼していますが、良い権利を取るためにには、良い説明が必要。それには商品のことを熟知していないとできません」と話す。また、スマートな申請を行うために「出願前に似たような発明がないかを『特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)』を使って調べています」と同担当の森山氏。さらに、社内研修など会社全体の知財活動も地道に行ってきたことで「以前よりも特許や意匠などに対する社員の意識が高まりました」と同担当の本田課長代理は語る。

日本人の発想を取り入れ 世界中での販売を目指す

近年、意匠登録を多く取得しているのが、「快段目盛」シリーズの各種測定器だ。「快段目盛」とは、目盛に段差をつけることで、数値を読み取るスピードと正確性を向上させた画期的なアイデアの目盛。海外での販売を考慮し、商標登録も行った。

このように海外の出願申請が多い同社は、NICOの「中小企業等外国出願支援事業補助金」を活用してきた。「外国への意匠・商標等の出願は高額な費用がかかるため、非常に助かって

います」と五十嵐社長は話す。

「海外メーカーのように安さを追い求めるのではなく、少しでもお客様が使いやすい商品を提案・提供していきたい。こうした日本人ならではの発想を取り入れた商品を社内で企画・開発して、商品化し、世界で販売する。そのためにも知財の権利をしっかり取得していきたいと思っています」と五十嵐社長。会社と商品を守る盾として、そして経営戦略の有効な手段として知財を活用しながら、これからも世界の市場に挑戦していく。

知財活用・戦略のポイント

- 知財を担当する専門部署を置き、社内にノウハウを蓄積。
- 知財の社内啓発に取り組むことで、知財に対する社員の意識が向上。
- NICOの支援事業を活用し、外国への出願を強化。



▲1mm単位の目盛を一目で把握できる「キャッチアップスケール 快段目盛」。この商品は全体会の意匠登録をはじめ、片手でつまみやすいように曲げたスケールの先端部が「部分意匠」として登録されている。



▲同社の特許商品の中で代表的なものが、デジタル式の水準器「レベルニック」。最小読み取り値0.001mm/mの高い精度で工作機械の水平出しや、平面度・直線度測定に威力を發揮。他の測定器と比べ、簡単に短時間で測定でき、コストパフォーマンスに優れている。